

たわわ

2019 No. 108

「たわわ」というタイトルには「小さな情報がたくさん集まって多くの実を結ぶように」という期待が込められています。



人形、衣装、舞台、人杖、全てが地域の宝物

相模人形芝居 前島座



相模人形芝居 さきとりざ 前鳥座



相模人形芝居を知っていますか。

小田原、厚木、平塚、南足柄の4市に伝わる三人遣い（一体の人形を三人で操る）の人形芝居のことです。人形浄瑠璃というとイメージが湧きやすいでしょうか。

現在では5つの座で連合会を成して、それぞれが国指定や県指定の重要文化財とされています。

操る人形の背丈はだいたい120cm、一体の重さは軽くて10キロ、重いと20キロぐらいあります。

遣い手はそれぞれ「主遣い」おもつか「左遣い」「足遣い」に分かれます。

主遣いとは人形の首（カシラ）と右手を操作する人のことです。左遣いが人形の左手を、足遣いが人形の両足を操って演技を行います。一体の人形が動いている下では後見人といって小道具を世話する人も控えていますので、一体の人形に少なくとも四人の手がかけられています。人形芝居の登場人物が一人だけということはないですし、太夫（語り手）と三味線もいますから、人形芝居にはたくさんの方の関わりが必要なことはお分かりいただけただしょうか。

芝居の演目には悲劇的なお話も多いので、現代ではなじみにくいところがあるかもしれません。そのため、小田原の下中座などでは子供にも分かりやすい新しい演目を創作して、親しんでもらえる努力をしています。

前鳥座では子供のために公民館や学校等で人形教室をやることも多いのですが、操法（人形の操り方）を体験するとき、子供たちは華やかな人形に目がいきます。かんざしがたくさんついて着物が色鮮やかな娘役や、鎧を身に着けた勇壮な姿の武士は人気があります。

実は、前鳥座には「梨割り」というちょっと珍しいカシラがあります。刀での立ち回りの場面で使う、頭が真っ二つに割れるカラクリがあるものです。これは少しコミカルで分かりやすいからか、子供にも大人にも人気があるんです。

梨割りのカシラは全国でも5体ぐらいしかないので、貴重なものです。

年に一度、座で持っている人形や道具を一齐に虫干しするんですが、今やっている演目にないものや使いこなせないものまで全て出しますから、なかなか見られない光景です。



梨割りのカラクリ

私たちは人形芝居のプロというわけではないので、会社勤めの座員もいます。

練習は月2回で1回3時間ほどです。もっとやりたいけれど、それぞれの本業があるのであまり多くはできません。けれど、人形を動かすというのはなかなか大変なものです。

表情が変わるカシラはほとんどないので、アゴの上げ下げ、顔の角度、手の位置なんかで大きく表情が変わります。女性の人形には足がないので、足遣いは指で着物の裾をつまんで足の動きを表現したりします。

右手と左手を一緒に動かすときは、遣い手がそれぞれ違いますので、カシラのちょっとした動きを合図にするなど、息の合わせ方を決めていきます。足遣いもちゃんと持たないと引きずられて上の二人が重たくなってしまいますので、三人がそれぞれ一体の人形の全体のバランスを考える必要があります。

年に一度、相模人形芝居連合会での発表会があるのですが、その前に5つの座が集まってどの演目にするかを相談して決めます。

全体的に高齢化が進んでいて座員が減っていたり、女性の座員ばかりになってしまったので重たい人形が操れなくなったり、と様々な理由で演目が限られてしまう傾向もあります。

今、前鳥座には未成年の座員が二人いますが、地域のお祭りで飾っていた人形に興味を持ってもらえたことから、色々なところに出向くことの大切さを感じています。

人形教室やワークショップは大事にしている活動の一つです。平塚の人に広く人形芝居を知ってもらって、そして若い人にも興味を持ってもらいたいですね。

どこの座も後継者を育てることが大きな課題となっていますが、伝統文化を守っていくことの重みと誇りを伝えていきたいです。

【プロフィール】前鳥座



練習は四之宮公民館で土日を中心に月2回。座員は四之宮地区だけでなく広く募集中。今後の予定は11月17日民俗芸能まつりで発表がある。（平塚市中央公民館）



人形遣いの様子



虫干し中の昔の着物

四之宮に伝わる人形浄瑠璃芝居の一座で、古くは四之宮人形と呼ばれた郷土の伝統芸能。江戸時代の中頃から始まったと推定され、太平洋戦争前後に活動が中断したものの、昭和33年に「前鳥座」の名称が与えられて公演活動等を行っている。

ひらつかの文化財を知ろう⑩

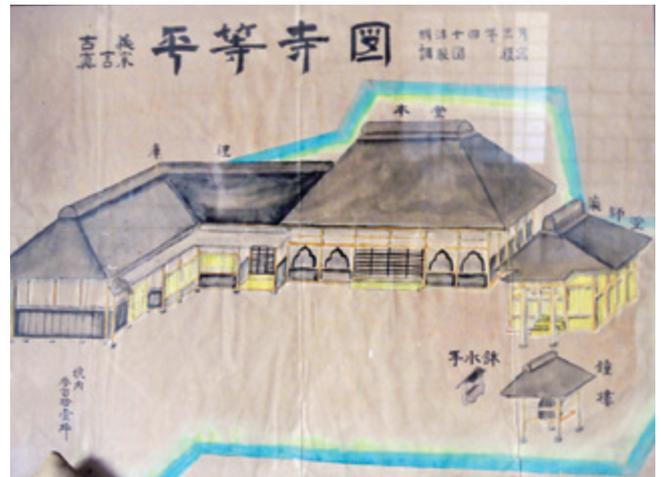
平塚市域の中世初期寺院の謎

鎌倉幕府の公式記録である『吾妻鏡』には、建久3(1192)年8月9日に源頼朝が妻政子の安産祈願を命じた神奈川県内所在の寺社として27か所の記載があり、平塚市内の寺社としては平等寺(豊田)、範隆寺(平塚)、常蘇寺(城所)、五大堂(八幡号大会御堂)、観音堂(金目)、四宮(前鳥大明神)、黒部宮(平塚)と所在不明確な八幡宮を入れると8か所が記録されています。これは記載寺社の約3割に及んでいます。これらの寺社は、将軍家が祈願をする以上、それなりの規模・格式と神官・僧侶を揃えていたものと考えられます。

この時期は、土地制度が着実に中世へ変化しつつありますが、文化的には古代末的な院政期文化を継続しており、当時の文化が宮廷文化と仏教文化を核としていたことを考えると、こうした寺社数の多さは、平塚市域が古代以来、文化的に一つの中心をなしていたことを伺わせるものと思われます。市域に遺る平安仏もそうした仏教文化の流れを示すものかもしれません。

近年、古代・中世初期寺院の調査が進み、横須賀市の宗元寺や満願寺、伊豆の国市の元成就院(近年、運慶作の国宝不動明王像でも著名)では礎石や瓦を葺き、

苑池を伴った本格的な寺院が建築されていたことが判明してきています。これらの地域が鎌倉有力御家人であった三浦・北条氏の本拠地であることも興味深いですが、平塚市域の寺院では今のところ、こうした瓦などの大規模な寺院建築の痕跡が発見できません。瓦使用の有無を含めて、その背景やどういった理由があるのか、また、当時の寺院がどういったものであったのかなどこれからの検討が必要です。



豊田平等寺 明治時代の絵図

リトアニアだより(8)

今回はリトアニアの食文化の中でも重要な「ハチミツ」について御紹介します。

リトアニアは長い間、農業国として自然と密接に結びついてきました。

豊かな食文化や昔からの生産方法を継承すると同時に、生産者たちが農業改革にも熱心に取り組むことで、リトアニアの農業は発展してきました。

中でも生産歴史が長いハチミツは、リトアニアの人々が誇りをもって取り組んでいる分野です。

おいしいうえに栄養食品でもあるハチミツを大事にする一方で、リトアニアの人々は蜂そのものに対しても愛情があります。

大事な蜂を敬愛する表現の一つとして、リトアニアでは蜂に対して「死ぬ(die)」という言葉ではなく「亡くなる(pass away)」という人間と同じ表現を用いているほどです。



蜂は蜜を集めてくれるだけではなく受粉の手伝いもしてくれる、農業にとって非常に大切な存在なのです。

ハチミツの中でも特に、オーガニックの手法で生産するハチミツは非常に価値があるものとして注目されていて、医薬品以上の価値があるものとして考えられていま

す。

オーガニック養蜂家はいくつかの決まりを守っていて、蜂の巣は認定された農業地域もしくは蜂の巣から半径3km以内の無垢な自然から、花の蜜と花粉を収集できるように配置されていなければなりません。

蜂にとって良い環境を提供することに細心の注意を払い、養蜂シーズンの終わりには蜂が越冬できるように、ハチミツとビーブレッド(幼虫のエサとなるハチミツと花粉を混ぜたもの)を巣箱の中に残しておかなければならないのです。

リトアニアのハチミツが大変高品質なのはこのような理由からであり、また、ハチミツには健康に良い成分が沢山含まれているため、「スーパーフード」としてとても価値ある製品となっています。

リトアニアのオーガニックのハチミツやナッツ入りハチミツをおやつとしていかがですか。

文：駐日リトアニア共和国大使館 農業担当官
デイヴィダス・クリュチンスカス



足もとの星座たち 第8回

平塚駅周辺の商店街に設置された星座絵タイルを紹介する「足もとの星座たち」、第8回は、一組の星座として見られることも多いみずがめ座とみなみのうお座をご紹介します。

みずがめ座は、黄道十二星座の一つ。ギリシャ神話におけるトロイアの王子で絶世の美少年といわれたガニユメーデスの姿を表した星座です。その美しさゆえに神々の王ゼウスに見初められ、天上へさらわれて神々に不死の酒ネクタルを給仕することになりました。ゆえに“みずがめ”を持った姿として描かれているのです。ちなみにガニユメーデスを連れ去るためにゼウスが変身した鷲の姿を表したのがわし座です。

みずがめ座は暗い星が多くなかなか見つけづらいのですが、ペガスス座の四辺形（105号参照）と後で述べるみなみのうお座の間にある三ツ矢のマークが目印となります。みずがめ座にはいくつか有名な天体があり、そのうちのひとつが惑星状星雲NGC 7293です。らせん星雲の愛称を持つ巨大な環状の星雲で、太陽程度の質量を持った星の最期の姿です。

みなみのうお座は、みずがめ座の“みずがめ”から流れ落ちるネクタルの先に位置する魚の星座です。そのため、星座線はみずがめ座とみなみのうお座とをつないでしまうことがほとんどです。ネクタルを飲んで酔っ払っているのか、ひっくり返った姿で描かれています。魚の星座というと黄道十二星座のひとつ、うお座を思い浮かべる方も多いと思いますが、まったくの別の星座です。ギリシャ神話では、ナイル川の岸で宴会を開いていた神々が怪物テュフォンにおそわれたときに、魚に変身して川に逃げ込んだ愛の女神アフロディーテの姿だとされています。



惑星状星雲NGC 7293 “らせん星雲”
(クレジット NASA, ESA, and C.R. O'Dell
(Vanderbilt University))



みずがめ座の絵タイル



みなみのうお座の星座絵タイル

みなみのうお座には秋の星空で唯一の1等星フォーマルハウトがありますが、ほかにめばしい天体はありません。フォーマルハウトは地球からの距離が25光年と太陽系に近い星の一つで、そのまわりを回る惑星が一つ確認されています。

みずがめ座とみなみのうお座の星座絵タイルは平塚駅北口バスロータリー周辺に設置されています。みずがめ座は写真のほか2種類、あわせて3種類の星座絵タイルがありますので、ぜひ探してみてください。

(平塚市博物館学芸員)

平塚市文化祭の御案内

10月5日～11月17日まで、第67回平塚市文化祭を開催しています。詳しくは平塚市のホームページ(<http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp>)を御確認いただくか、社会教育課(0463-35-8123)にお問い合わせください。

●昨年度の様子



平塚市文化振興基金に御協力を

平塚市文化振興基金は、市民文化の振興を図るために活用されています。基金に御協力くださる方は、平塚市文化・交流課まで御一報ください。いただいた基金は平塚市の子どもの芸術鑑賞事業(小学校アウトリーチ事業)や囲碁文化振興事業に活用されています。



発行

平塚市文化・交流課

〒254-8686

平塚市浅間町9-1

電話

0463-32-2235

FAX

0463-21-9756